

④7: 身近な自然を楽しむ：小花(小さな花が集まった花)の小アルバム

Enjoy the surrounding nature: A small album of little flowers

7/12/2024 吉野輝雄

近隣を歩いていたり、自転車を走らせていると、道端や庭先に“小さな花が集まっている群れを成して咲いている花”が目に入る。その多くは強い印象を与える花ではないので、さっと見過ごしてしまい、花の名を調べる人も少ないのではないかと。

植物学では、そのような形態の花を小花と総称する。そこで今号は、小花特集とするが、個々の花の名をクイズにすると超難問となるに違いない(チャレンジを！)。

[1 段目]：まずは諺「**栴檀(せんたん)は二葉より芳(かんば)し**」で知られる**センダン**。4月半ば、牧野記念庭園で小さな紫色の花を見た。**白檀**とも呼ばれ、発芽した頃から芳香を放つことから、優れた人物は幼少の頃から優秀(向上心が秀でている)という喩だ。次は、芦花公園に何本も見られる白い塊の花**サンゴジュ(珊瑚樹)**。しばらくすると濃い橙色に変化する。次は、ピンク系統の小さな花が密集して咲く**シモツケ(下野)**。木目と草目が存在し、色合いが少し異なる。命名は、下野(今の栃木県)で見つかった事に由来する。

[2 段目]：シューベルトの歌曲で有名な**ボダイジュ(菩提樹)**の花を見たことがありますか？芦花恒春園の木戸の側に大木があり、待ちに待った薄黄色の花が今年はたくさん咲いた。**アメリカズイナ(髓菜)**は、白い小さな花が独特な形(総状)に咲く。**ネズミモチ 2 種**：紫黒色の実がネズミの糞を連想させるモチの木が命名の理由。花は、白い小さな多数の円錐花序として咲く。**コミノ(小実の)ネズミモチ**は、その名の通り小さな濃紺の実をつける。花は小さいが清楚で美しい。

[3 段目]：**ノリウツギ(糊空木)**は、小花が寄り集まった**紫陽花の原種**として No.45 で紹介済みだが、その後芦花公園で見た花は最高に美しく輝いていたので再登場させた。**空木**は幹が空洞になっている植物群で、**卵の花**とも呼ばれる。庭木として自宅でも育てることができる樹木で、マルバウツギ、ハコネウツギなどがお馴染みだ。

ニワナナカマドは、羽根のような葉の上を白い雲がふんわり覆ったような花を初夏に咲かせ、秋には真っ赤な紅葉の街路樹となり、冬には葉が落ちて赤い房の実の上に雪が帽子のように積もった姿になる。私は、冬の札幌でその景色を目の当たりにした印象が今も鮮明に残っている。**トキワサンザシ(常磐山査子)**は、春に白い花が密集して咲き、秋に深紅の実を枝いっぱいにつける。その姿がまるで花のようだ。**山査子**は、北原白秋の「この道」にも謡われている。橙色の実をつけるピラカンサスも同種だ。

[4 段目]：**マユミ(真弓)**の花は地味だが、秋に枝を覆う淡紅色の実はとても魅力的だ。**シロタエギク(白妙菊)**は、この度のアルバムでただ一つ黄色の花の植物。しかし、一般には、白い毛に覆われた葉を觀賞するための草花で、冬期にも強靱なので花壇のハボタンやパンジーの引き立て役として植えられる、と記されていた。なんと哀れな！

マサキ(正木)／別名・ニシキギソウ(錦木草)。厚みのあるつややかな葉が年間通して枯れることない樹木で丈夫なので、生け垣としてよく使われている。写真は6月にたまたま見かけた小さな薄黄色の花だが、マサキの本命は葉にあるようだ。4月に見せる黄色の新芽(特に、オウゴンマサキの芽)は花のように美しい。

最後は、お馴染みの**ナンテン(南天)の花**。6月に密集して咲く花の一つ一つが、晩秋から冬に赤い実となる。難を転じて福となすナンテンは、お正月に欠かせない植物だ。